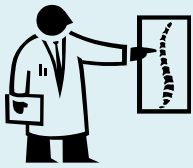


伊藤外科ニュース



81号

2011. 2 発行

まだまだ寒い季節です



各紙の報道によると今年の一月は記録的に寒かったようですね。私は、年末からスキー用のストッキングを履いて診療をしています。数年前には、手足の冷えを感じませんでした。二年程前から、高齢の方が「手足の先が冷える」とおっしゃった事がよくわかるようになりました。年寄りの気持ちは年を取らないと分からないよ」と若い頃にはよく言われたものですが、納得できる今日この頃です。しかし、一方で春は着実にやってくるようで、先日行ったゴルフ場では、日差しの温かさがとても心地よかったです。伊藤外科の近隣は、高層ビルが乱立し、以前のような広い青空がなく、太陽の暖かさを感じる機会が少ないことが残念ですが。

骨粗鬆症のおはなし



今回は骨粗鬆症の話を少しいたします。骨粗鬆症とは、骨の強さが低下し、骨折し易くなった骨格の病気です。人口の約10%、1100万人の羅患者がいると推定されています。また、80歳以上の女性の約半数は骨粗鬆の状態と推定されています。男性の患者さんは女性の6分の1程度と少なく、やはり閉経後の女性ホルモン（エストロゲン）の欠乏が発症の要因と考えられています。自覚症状がなく推移することが多く、唯一腰や背中の変和感を感じる事がある程度です。

そのため、脊椎の圧迫骨折や大腿骨の骨折を発症してから治療に入ることが多いと思われます。

伊藤外科の外来にも四角い脊椎の骨が台形や三角形に潰れて、背中痛みがひどくなった経験の女性が多く来院されています。

圧迫骨折を起こすと数週間はかなり強い痛みを感じます。また転倒時に生じる大腿骨の頸部骨折（ふとももの付け根の部位の骨折）も激しい痛みを伴い歩行困難となります。

以前は高齢者の骨折であるため手術もできず、寝たきりの生活から寿命を縮めましたが、現在は早期の手術により歩行が可能となる患者さんが増えたようです。

さて、骨粗鬆症は自覚症状が現れにくい病です。から、どの時点で患者さんや医者が気が付くかが重要です。検査法も多くあり、各々の検査に良い点や欠点がありますが、町の診療所で比較的容易に行える検査はレントゲン検査であります。腰背部の変和感や身長低下、円背などがきっかけとなり受診し治療に入ることが多いようです。

この病気に対する治療の目的は、骨折により生活範囲が制限され寝たきりになったり、気力が衰えることを予防することにあります。治療のひとつとして薬物治療があります。特に最近では高齢者の増加により治療薬の種類も多くなりました。超高齢社会を迎え、食事内容の検討と適度な運動は勿論の事、適切な時期に骨粗鬆症の進行を予防するためにお薬の力を借りる時代になってきたのかもしれないね。

(院長)





今回の一冊

日本の神話

永田義直・編著

三弓の本棚は仕事場・自宅に数ヶ所ずつある。几帳面なところがあって、本棚もなかなかよく整理が行き届き、なにを意図して分類していたのかが垣間見れたりしておもしろい。

そのなかのひとつの、「とりあえずの本」を入れてあった本棚がある。晩年特に、ここはよく出し入れしていて、「とりあえず」といいつつも、結局は「手放すにはおいしい」と判断されたいらしい新旧の本がアットランダムに並べられていた。

その本棚で珍しい本を見つけた。『日本の神話』——昭和48年に金園社という出版社から出された本だ。「珍しい」というのは、本のことではなく、「天地創造」や「八百万の神々」といった日本の神話に、三弓が興味をもったことがあったとは、知らなかったからである。

実はワタクシ、ここ数年、『古事記』にちょっとハマっている。

いい大人になるまで、日本史にまったく興味がなかったのだが、ひょんなことで幕末史に興味を持ち、その次に仏教が伝来したあたりから飛鳥時代、そして空海や最澄が存在した奈良・平安時代あたりを扱った本を読み始めた。

いわゆる「日本の歴史」の流れとは別に、「天地創造」から始まる物語がある（これを歴史とっていいかは、判断がつきかねるが）。「記紀」と称される『古事記』と『日本書紀』だ。

一度は読んでみなければと思いつつ、ファンタジースペクタクルのような（と、当時は思っていた）神話から始まるこれらを、自力で読む自信がなかった。そんな頃、法政大学が行っている社会人向けの講座に『古事記を読む』を見つけ、通ってみた次第。

『古事記』の講座は、なかなか刺激的だった。授業初日、『かみ』の『か』は……という、古語の言語学的アプローチから講義が始まった。原文の訳を読み下しながらさらに、歴史、政治、考古学、神道学さまざまな方面からこの物語が解説されていく。そしてなにより私を捕らえたのは、「黄泉の国からもどったイザナギが、穢れをはらうために禊をしたとき、左の目からアマテラスが生まれ、右の目からツクヨミが生まれ、そして鼻からスサノオが生まれた」というくだりだった。「なにい〜！ スサノオさんは鼻の穴からスポンッと生まれたのかあ〜!?」。真剣そのもので続く教室の空気のなかで、ひとり、肩を震わせ、笑いをこらえた。

そもそも、「唯一神」というのは、なんだかとてもエラくていらっしゃるので、お知り合いになるのもはばかれる。が、八百万といわれる日本の神々は、それぞれに個性的。

「記紀」には、それが綴られるに至った政治的意図というものが大きくあるが、そのなかに織り込まれている日本の神話の根っこの部分を少しでも垣間見ることができれば……、そんなことを思いながら、『日本の神話』も読み始めている。

(三弓)